

平成30年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第3号(6月予報)

○向こう1か月の天候の見通し（平成30年5月24日発表：沖縄气象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	平年並か少ない	平年並か多い

○6月の発生予報（沖縄群島）

作物	病害虫名	5月の発生量 (現況)	6月の 増減傾向	増減傾向の根拠
さとうきび	① バッタ類	やや多	↗	幼虫数の平年の発生推移から、5月より発生量は増加すると考えられる。
	② メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)	やや多	↘	芯枯茎率の平年の発生推移から、5月より発生量は減少すると考えられる。
	③ メイチュウ類(イネヨトウ)	やや多	↘	芯枯茎率の平年の発生推移から、5月より発生量は減少すると考えられる。
カンショ	① ナカジロシタバ	やや多	→	被害葉率と幼虫数の例年の発生推移から、5月と同程度の発生量と考えられる。
	② イモキバガ	並	→	被害葉率と幼虫数の例年の発生推移から、5月と同程度の発生量と考えられる。
かんきつ (温州みかん)	① かいよう病	並	↗	発病葉率・発病果率の平年の発生推移から、5月より発生量は増加すると考えられる。
	② そうか病	並	↘	発病葉率・発病果率の平年の発生推移から、5月より発生量は減少すると考えられる。
	③ ハダニ類	並	↗	寄生葉率の平年の発生推移から、5月より発生量は増加すると考えられる。
かんきつ (タンカン)	① かいよう病	並	↗	発病果率の平年の発生推移から、5月より発生量は増加すると考えられる。
	② そうか病	(発生なし)並	↘	発病葉率・発病果率の平年の発生推移から、5月より発生量は減少すると考えられる。
	③ ハダニ類	やや多	↗	寄生葉率の平年の発生推移から、5月より発生量は増加すると考えられる。
マンゴー	① チャノキイロアザミウマ	やや多	↗	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、5月より発生量は増加すると考えられる。
	② マンゴーハフクレタマバエ	やや多	↗	発生株率の平年の推移から、5月より発生量は増加すると考えられる。
	③ ハダニ類	並	↗	雌成虫数の平年の発生推移から、5月より発生量は増加すると考えられる。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○6月の発生予報つづき（沖縄群島）

作物	病害虫名	5月の発生量 (現況)	6月の 増減傾向	増減傾向の根拠
へちま	① ベと病	並	↘	発病葉率の平年の発生推移から、5月より発生量は減少すると考えられる。
	② ハモグリバエ類	多	↗	寄生葉率の平年の発生推移から、5月より発生量は増加すると考えられる。
	③ ヒメクロウリハムシ	並	↗	成虫数の平年の発生推移から、5月より発生量は増加すると考えられる。
	④ ミナミキイロアザミウマ	並	↘	つる先と葉の成虫数の平年の発生推移から、5月より発生量は減少すると考えられる。
オクラ	① うどんこ病	(発生なし)並	→	発病葉率の平年の発生推移から、5月と同程度の発生量と考えられる。
	② フタテンミドリヒメヨコバイ	並	↗	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、5月より発生量は増加すると考えられる。
	③ アブラムシ類	(発生なし)やや少	↗	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、5月より発生量は増加すると考えられる。
	④ チョウ目幼虫 (オオタバコガを除く)	並	→	幼虫数の平年の発生推移から、5月と同程度の発生量と考えられる。
ゴーヤー (施設)	① モザイク病 (スイカ灰白色斑紋ウイルス以外)	(発生なし)並	↗	媒介虫であるアブラムシ類の発生量が増加する見込みであることから、5月より発生量は増加すると考えられる。
	② うどんこ病	(発生なし)やや少	↗	今後1か月の降水量が平年より多い見通しから、5月より発生量は増加すると考えられる。
	③ ミナミキイロアザミウマ	並	↗	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、5月より発生量は増加すると考えられる。
	④ アブラムシ類	やや多	↗	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、5月より発生量は増加すると考えられる。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○6月の発生予報つづき（沖縄群島）

作物	病害虫名	5月の発生量 (現況)	6月の 増減傾向	増減傾向の根拠
トマト	① 黄化葉巻病	並	↗	媒介虫であるタバココナジラミ類の発生量が増加する見込みであることから、5月より発生量は増加すると考えられる。
	② うどんこ病	並	→	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、5月と同程度の発生量と考えられる。
	③ タバココナジラミ	多	↗	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、5月より発生量は増加すると考えられる。
	④ ハモグリバエ類	並	↗	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、5月より発生量は増加すると考えられる。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

●平年値：過去5～10年間の発生量の平均値

●例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（沖縄群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	カンシャコバナナガカメムシ	読谷村の一部ほ場で本種の吸汁害による枯死茎が見られた。茎当たりの個体数が20頭を越えるほ場では防除を行うことが望ましい。
さとうきび	黒穂病	那覇市及び八重瀬町の一部のほ場では発病株が見られた。胞子の飛散を防ぐため、できるだけ鞭状体出現前に抜き取り処分する。発生ほ場からは採苗せず、多発ほ場では抵抗性品種を利用する。
マンゴー	炭そ病・軸腐病	関係機関からの報告によると、一部施設で発生が見られた。出蕾期から果実肥大期まで定期的に予防散布を行う。被害花穂などは感染源となるのでほ場内外へ持ち出し処分する。

平成30年度 宮古群島 病害虫発生予報 第3号(6月予報)

○向こう1か月の天候の見通し（平成30年5月24日発表：沖縄气象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	平年並か少ない	平年並か多い

○6月の発生予報（宮古群島）

作物	病害虫名	5月の発生量 (現況)	6月の 増減傾向	増減傾向の根拠
さとうきび	① メイチュウ類 (カンシャシンクイハマキ)	多	↘	芯枯茎率の平年の発生推移から、5月より発生量は減少すると考えられる。
	② メイチュウ類 (イネヨトウ)	多	↘	芯枯茎率の平年の発生推移から、5月より発生量は減少すると考えられる。
マンゴー	① チャノキイロアザミウマ	並	↗	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、5月より発生量は増加すると考えらる。
	② マンゴーハフクレタマバエ	並	↘	発生株率の平年の発生推移から、5月より発生量は減少すると考えらる。
	③ ハダニ類	並	↗	雌成虫数の平年の発生推移から、5月より発生量は増加すると考えらる。
オクラ	① うどんこ病	並	↗	発病葉率の平年の発生推移から、5月より発生量は増加すると考えられる。
	② フタテンミドリヒメヨコバイ	並	↗	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、5月より発生量は増加すると考えられる。
	③ アブラムシ類	やや多	↗	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、5月より発生量は増加すると考えられる。
	④ チョウ目幼虫 (オオタバコガを除く)	並	↗	幼虫数の平年の発生推移から、5月より発生量は増加すると考えられる。
とうがん (施設)	① うどんこ病	(発生なし)並	→	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、5月と同程度の発生量と考えられる。
	② ミナミキイロアザミウマ	並	↗	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、5月より発生量は増加すると考えらえる。
	③ ハモグリバエ類	並	↗	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、5月より発生量は増加すると考えられる。
	④ タバココナジラミ	並	↗	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、5月より発生量は増加すると考えられる。
	⑤ ハダニ類	並	↗	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、5月より発生量は増加すると考えらる。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。
 ●平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
 ●例年値：過去3～4年間の発生量の平均値
 ※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。
 ※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○6月の発生予報の続き（宮古群島）

作物	病害虫名	5月の発生量 (現況)	6月の 増減傾向	増減傾向の根拠
ゴーヤー (施設)	① うどんこ病	(発生なし)やや少	↗	今後1ヶ月の降水量が平年より少ない見通しから、5月より発生量は増加すると考えられる。
	② 斑点病	やや多	↘	今後1か月の降水量が平年より少ない見通しから、5月より発生量は減少すると考えられる。
	③ ミナミキイロアザミウマ	並	↗	今後1ヶ月の気温が平年より高い見通しから、5月より発生量は増加すると考えられる。
	④ タバココナジラミ	並	↗	今後1ヶ月の気温が平年より高い見通しから、5月より発生量は増加すると考えられる。
	⑤ アブラムシ類	(発生なし)並	↗	今後1ヶ月の気温が平年より高い見通しから、5月より発生量は増加すると考えられる。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（宮古群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	黒穂病	宮古島内（島尻、嘉手苅等）および伊良部島内にて発生が見られた（発病ほ場率15%）。 胞子の飛散を防ぐため、できるだけ鞭状体出現前に抜き取り処分する。 発生ほ場からは採苗せず、多発ほ場では抵抗性品種を利用する。
さとうきび	バッタ類	来間島でバッタ類の多発生が確認された。 幼虫の発生も確認されたことから、今後の増加が予想される。 畑地内や周辺のイネ科雑草は、若齢幼虫の好餌であるため、除草に努める。 若齢幼虫の発生時期をねらった薬剤による防除が効果的である。
マンゴー	炭そ病・軸腐病	毎年、発生が見られるため注意が必要である。 出蕾期から果実肥大期まで定期的に予防散布を行う。 被害花穂などは感染源となるのでほ場外へ持ち出し処分する。

平成30年度 八重山群島 病害虫発生予報 第3号(6月予報)

○向こう1か月の天候の見通し（平成30年5月24日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	平年並か少ない	平年並か多い

○6月の発生予報（八重山群島）

作物	病害虫名	5月の発生量 (現況)	6月の 増減傾向	増減傾向の根拠
さとうきび	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)	多	→	芯枯茎率の平年の発生推移から、5月と同程度の発生量と考えられる。
	② メイチュウ類 (イネヨトウ)	多	→	芯枯茎率及びトラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、5月と同程度の発生量と考えられる。
水稲	① スクミリンゴガイ	並	→	貝数の平年の発生推移から、5月と同程度の発生量と考えられる。
	② 葉いもち病	並	↗	発病株率の平年の発生推移から、5月より発生量は増加すると考えられる。
	③ 斑点米カメムシ類	並	↗	捕虫網すくい取り虫数の平年の発生推移から、5月より発生量は増加すると考えられる。
	④ コブノメイガ	並	→	被害株率の平年の発生推移から、5月と同程度の発生量と考えられる。
マンゴー	① チャノキイロアザミウマ	並	↗	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、5月より発生量は増加すると考えられる。
	② ハダニ類	やや少	↗	雌成虫数の平年の発生推移から、5月より発生量は増加すると考えられる。
	③ マンゴーハフクレタマバエ	やや多	↗	発生株率の例年の発生推移から、5月より発生量は増加すると考えられる。
オクラ	① うどんこ病	並	→	発病葉率の平年の発生推移から、5月と同程度の発生量と考えられる。
	② フタテンミドリヒメヨコバイ	多	→	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、5月と同程度の発生量と考えられる。
	③ アブラムシ類	やや少	↗	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、5月より発生量は増加すると考えられる。
	④ オオタバコガ	やや少	↗	幼虫数の平年の発生推移から、5月より発生量は増加すると考えられる。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

●平年値：過去5～10年間の発生量の平均値

●例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○6月の発生予報の続き（八重山群島）

作物	病害虫名	5月の発生量 (現況)	6月の 増減傾向	増減傾向の根拠
ゴーヤー (施設)	① うどんこ病	多	↗	今後1ヶ月の降水量が平年より少ない見通しから、5月より発生量は増加すると考えられる。
	② 斑点病	多	↘	今後1ヶ月の降水量が平年より少ない見通しから、5月より発生量は減少すると考えられる。
	③ ミナミキイロアザミウマ	多	↗	今後1ヶ月の気温が平年より高い見通しから、5月より発生量は増加すると考えられる。
	④ タバココナジラミ	多	↗	今後1ヶ月の気温が平年より高い見通しから、5月より発生量は増加すると考えられる。
	⑤ アブラムシ類	(発生なし)やや少	↗	今後1ヶ月の気温が平年より高い見通しから、5月より発生量は増加すると考えられる。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（八重山群島）

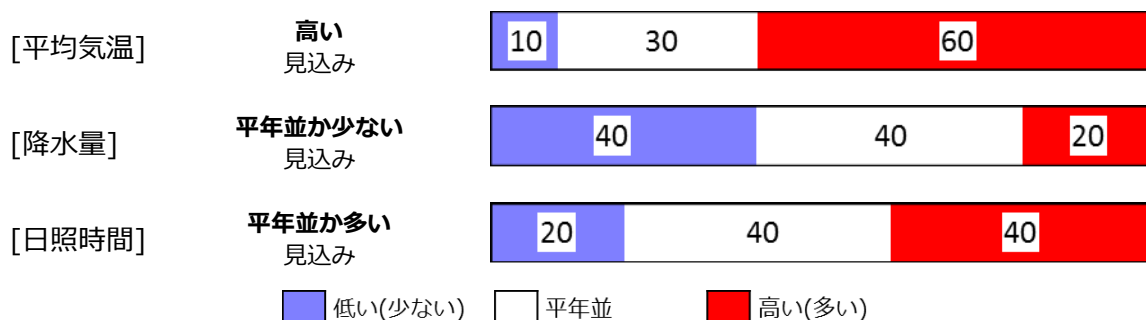
作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	白すじ病	5月中旬の調査の結果、発生ほ場率は25.0%であった。発生ほ場からは採苗しない。また多発ほ場では抵抗性品種を利用する。
さとうきび	黒穂病	5月中旬の調査の結果、発生ほ場率は12.5%であった。防除員からの報告によると、波照間島で中発生が確認された。胞子の飛散を防ぐため、できるだけ鞭状体出現前に抜き取り処分する。発生ほ場からは採苗せず、多発ほ場では抵抗性品種を利用する。
さとうきび	バッタ類	防除員等からの報告によると、与那国島でタイワンツチイナゴの中発生が確認された。また関係機関によると、小浜島でチュウゴクヒゲナガイナゴ、ヒゲマダライナゴの被害が見られた。ほ場周辺の雑草や牧草地は、若齢幼虫の好適な餌場となるため、除草や早期刈り取りに努める。成虫では防除が困難になるので、若齢幼虫期をねらった薬剤防除を行う。
マンゴー	炭そ病・軸腐病	5月下旬の調査の結果、一部ほ場で発生が見られた。出蕾期から果実肥大期まで定期的に予防散布を行う。被害花穂などは感染源となるのでほ場外へ持ち出し処分する。
ゴーヤー (施設)	モザイク病 (スイカ灰白色斑紋ウイルス)	関係機関からの報告によると、一部ほ場で発生が見られた。媒介虫であるミナミキイロアザミウマの早期発見・防除に努める。

向こう1か月の天候の見通し
 沖縄地方（5月26日～6月25日）

- 気象予報のポイント
- 向こう1か月の天候は、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。
- 暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の**平均気温は高い**でしょう。
- 前線や湿った空気の影響を受けにくく、向こう1か月の**降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多い**見込みです。



○ 向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間

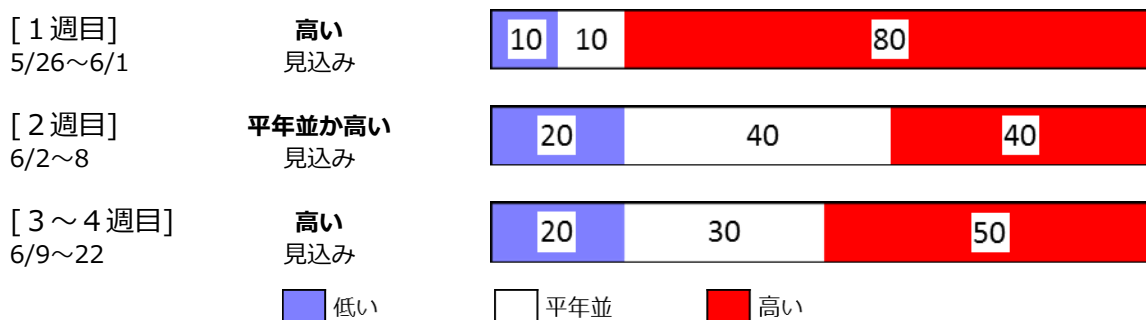


数値は予想される出現確率（%）です。

<平年並の範囲>

	平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
沖縄地方	平年差：-0.2～+0.2℃	平年比：81～115%	平年比：90～104%
那覇	25.7～26.2℃	199.8～331.3mm	118.5～143.4時間

○ 週別の平均気温



数値は予想される出現確率（%）です。

<平年並の範囲>

	平均気温（1週間）	平均気温（2週間）	平均気温（3～4週間）
沖縄地方	平年差：-0.4～+0.4℃	平年差：-0.4～+0.4℃	平年差：-0.2～+0.3℃
那覇	24.3～25.2℃	24.9～25.9℃	26.5～27.1℃

※ 沖縄地方の平年差（比）は、那覇・久米島・宮古島・石垣島・与那国島の5地点平均値です。
 ※ 平年並の範囲は、過去30年間（1981～2010年）の値から統計的に求めています。

詳しくは下記へお問い合わせ下さい



沖縄県病害虫防除技術センター

ホームページアドレス

<http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>

本 所	〒902-0072 那覇市字真地123 TEL 098-886-3880 FAX 098-884-9119
宮古駐在	〒906-0012 宮古島市平良字西里2071-40(農研センター宮古島支所内) TEL 0980-73-2634 FAX 0980-72-6474
八重山駐在	〒907-0003 石垣市平得地底原1178-6(農研センター石垣支所内) TEL 0980-82-4933 FAX 0980-83-1157